

コロナ禍でも頑張るワーカーズ・コレクティブ

2年に及ぶコロナ禍のなか、社会経済も厳しい状況が続いています。その中で埼玉のワーカーズ・コレクティブ連合会に集う事業所は1つも撤退することなく、お互いに協働することで事業を継続しています。

中間支援力を高めて

ワーカーズ・コレクティブの事業も緊急事態宣言により休業もやむを得ない状況や、来客数の低下等、それに伴う要因で事業高は低迷していました。

私達の事業は、地域住民に必要不可欠なものやサービスを提供することであり、事業を続けることは私たちの使命です。

それでも厳しい事業所も多々あり、中間支援を行う連合会では会員ワーカーズの協力を得て、コロナのために減収をしいられるワーカーズ・コレクティブに助成金の給付と、希望する事業所には会費の減免を行いました。

埼玉県の公共施設で食堂を営む事業所では、施設休業に伴い売上がない状態が1年ほど続きました。メンバーの脱退やモチベーションの低下により、事業継続が危うい状況でしたが、冷凍惣菜の開発に着手しました。その支援として県内のワーカーズ・コレクティブが冷凍惣菜を利用することで販路を確保し、販売開始に至っています。メンバーのモチベーションの向上につながっています。

連携する仲間がいる強み

ワーカーズ・コレクティブは代表だけではなく一人一人が事業に主体的に関わり、経営の責任を担っています。だからこそ皆で話し合い、ピンチの時はなおさら力を合わせることができる事業体です。私達は今回もこの困難な状況を各ワーカーズの協働の力で乗り越え、さらなる前進をしていきたいと思っています。

感染症の完全な終息はまだ先がみえませんが、一つ一つのワーカーズが地域の大切な社会資源です。私たちには助け合える仲間の関係性があります。その関係性を力に事業を継続していきたいと思えます。

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会運営委員

後藤成美

ワーカーズ・コレクティブいと



〒 340-0015
草加市高砂 2-18-39-302
tel/fax 048-927-7714

使い捨て文化が盛んだった1992年、捨てられる服を修繕し、リフォームして大切に使い続けようと「いと」は設立された。丁寧な仕事で29年間事業を続ける。

コロナ禍の中での「地域のお針箱」

2020年春緊急事態宣言が発令され、街を歩く人も減り、食堂の店頭でテイクアウトのお弁当が売られ、公共施設の使用も様々なイベントも中止になりました。私たち「いと」は3階建てビルの3階にある小さなリフォームのお店。メンバーで話し合い、消毒と換気に努め、マスクをしながら営業を続けましたが、2021年初めの2回目の緊急事態宣言後、事業高は当初の予算を大きく下回って多額の赤字を抱えてしまいました。毎年開催してきた『展示会』が開けなかったこと、例年出展していた地域のイベントの中止も痛手でした。

今年度に向けて赤字解消のため工賃の分配金(人件費)割合を下げて予算立てした頃、コロナ禍で困窮しているワーカーズに連合会からの給付金があると知り、申請し、受けることができました！連合会はみんなでつながって助け合うところだというお声かけが心に染みて嬉しかったです。

草加駅高架下の物産観光情報センターでの『ミニ展示会』を増やし葉書宣伝に力を入れました。ボックススペースの出店も準備中です。長年使っていたミシンが壊れて予算を超えた出費もあり、はらはらしながら営業を続けていますが、給付金のおかげで気持ちのゆとりを持つことができました。

1月には三郷のコミュニティカフェを運営する「ワーカーズ・コレクティブ青いそら」のギャラリーコーナーに出店させていただきました。コロナ禍では気苦労も絶えませんが、つながりの温かさも実感できました。

大塚晴子